

破壊の先の創造 パンクの女王

ヴィヴィアン・ウエストウッドさんを悼む

デイム・ヴィヴィアン・ウエストウッドの姿を初めて間近に見たのは、2017年6月のロンドン・コレクションだった。肩車で登場したヴィヴィアンは意外と小柄だったが、観客の大歓声を浴び、場の熱狂を巻き込んで神がかった輝きを発しているように見えた。76歳(当時)でも観客を高揚させ、過去を繰り返さず前進していく姿はエネ

寄稿 中野香織 (服飾史家)

ルギッシュで、100歳を超えても現役でいらっしやるだろう、と願望をこめて勝手に思い込んでいた。訃報を聞いて、早すぎる衝撃を受けた。

ヴィヴィアンは多くの顔をもつ。パンクの始祖、数々の受賞歴や受勲歴をもつファッションデザイナー、経営者、時代を挑発する活動家にして環境啓蒙家、25歳下の夫(3人目)をも



昨年12月29日に81歳で死去した。2014年にも環境保護活動で存在感を見せていたRAP

過激に優雅に 世界を挑発し続けた重鎮

つ妻、そして情熱的で率直なパソナリティーで人々の注目を浴びるイギリス文化のアイコン。それらすべてを兼ね備えるゆえにイギリスファッション界の女王として君臨してきた。

初めてその名が世界にとどろいたのは、1970年代である。2人目のパートナー、マルコム・マクラレンとともにロンドンのキングスロードからパンクムーブメントを起こした。

挑発的なメッセージTシャツに安全ピン、チェーンやびょうろを多用した装飾、攻撃的なヘアメイクといったヴィヴィアンが創るパンクスタイルが時代の象徴となった。マルコムがプロデュースしたバンド「セックス・ピストルズ」も過激な反体制的表現ゆえに大人気となって、「パンクの女王」と異名をとった。

マルコムとの関係を解消してからは、歴史に着想を得た本格的な服づくりに取り組み、モード界に進出する。皮肉やユーモアをスパイスとしたエレガントな服は保守層からも支持を得て、女王陛下から2度、勲章を授与され、デイムの称号を与えられた。90年代には「今年のデザイナー」賞を2年連続で受賞し、2006年には3度目の受賞を果たした。ヴィクトリア&

活動は変遷しているものの、一貫しているのはパンクの精神である。つまり、「壊して、自身の手で創造すること」。「自分で考え、自分のやり方で行うこと」。パンクは破壊するだけではなく、自分流に創造することとセットになっているのだ。そんなヴィヴィアンが嫌いな態度は「みんな同じ」。ヘアピンの位置までみんな一緒という日本の就活生の集団を目にしたら、彼女にはどんな破壊・創造力が湧いてきただろうか。

アルバート美術館では大々的な回顧展も行われたほどの権威である。それほどの重鎮となっても世間を挑発し続け、10年代以降はむしろ環境保護活動をしたたりといった社会活動家としてニュースをにぎわせた。シエールガス採掘に反対し戦車に乗って首相邸に抗議に行った15年の雄姿は、タフでエレガントな闘士としてのヴィヴィアンを世界に印象付けた。デザインの仕事は夫のアンドレアス・クロンタラーに委ねていく。

刺激的な見せ場をつくりながらも穏やかに語るヴィヴィアンには、骨太な知性と優しさがあつた。より善き人間社会のため体制に屈せず闘い続けた「女王」の影響力は、没後も衰えることはないだろう。ありがとうヴィヴィアン。パンクのスピリットは永遠に語り継がれます。